

【全体概要】

愛知県内のイチゴ産地では、炭酸ガス発生装置が生産面積の約3割で導入され、施用方法についても増収効果が期待できる日中施用に変わってきている。そこで、従来の施設全体施用と比較して、植物体近傍の炭酸ガス濃度を維持しやすい局所施用技術の実証により、収量向上、省エネ、低コスト化並びに環境負荷の軽減を図る。

新品種・新技術等の概要

「イチゴの炭酸ガス局所施用技術の確立」

開発者：静岡県、茨城県

開発年：2017年

特 徴

- ①植物体近傍にダクトを配置し、炭酸ガスを送風する。
- ②制御機により濃度制御を行う。
- ③日中に施用する。

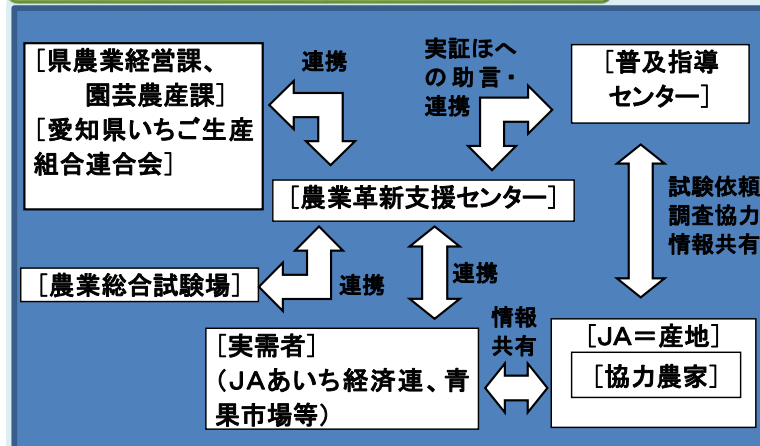


炭酸ガス局所施用の配管

主な取組内容

- 局所施用機と植物体近傍にダクトを配置した実証ほを設置し、全体施用と比較して有効性を検証した。
- 実証ほ現地検討会、実証結果のとりまとめと成績検討会の実施
- 関係機関との意見交換会
- 産地・実需者と局所施用技術に関する研修会及び意見交換会
- 産地・実需者との情報交換会

実施体制図



・農業革新支援専門員は、普及指導センター、試験場と連携し、実証試験への助言や支援を実施。

・協力農家は、実証ほの栽培管理、評価を行う。

・普及指導センターは産地と連携、協力し実証ほの調査を行う。

課題と今後の対応

【取組の結果】

○炭酸ガス局所施用は、慣行の全体施用に比べ、草高や葉長は大きく、収量は向上した。また、売上から燃油代及び減価償却費を差し引いた収益も、局所施用が慣行より高かった。よって、現地ほ場における局所施用の効果が明らかとなった。

○産地と実需者との意見交換の結果、局所施用による収量向上効果に関心が高まった。

【今後の対応】

○次作では、導入コストがより安価な炭酸ガス施用機材の検討を行う。

○2か年の結果を踏まえて、技術マニュアル及び導入の手引きを作成し、普及を図る。